

組合員の皆さまへ 「雇用の危機」「生活の不安」を突破しよう！ 緊急署名にご協力をお願いします。

現在、完全失業率は5.5%を記録し、県内のハローワークには毎月3万5千人もの人が、職を求めて訪れるといった状況にあり、これまで以上に先行きの見えない経済不況の中で「社会不安」「雇用不安」が増大しています。

このような中で、連合群馬に結集する12万組合員の総力を上げ、85万勤労県民を代表する立場から「雇用の維持と創出、社会的な支援制度の整備」を求め、群馬県と厚生労働省の出先機関である群馬労働局に対し、緊急署名を添えた要請行動を行います。

この要請行動は、私たちの諸先輩が幾多の困難を越えて歴史的に継承してきた「メーデー」、すなわち「すべての働く者が、自分たちの課題を十分認識し合い、社会的な運動としてアピールする。」行動として、5月1日のメーデーに合わせて取り組みます。

組合員とその家族の皆さまをはじめ、85万勤労県民の「切実な願い」を署名に託し、関係当局のさらなる努力を促したいと思えます。

ぜひとも、この署名活動に対する、ご協力をお願い申し上げます。

署名の集約目標 12万人+α!

具体的取り組み

- ①各構成産別を通じ、署名の協力をお願いします。
- ②広く県民から署名を集約するために、ふれあいフェスティバル会場での呼びかけや、連合群馬による街頭署名を実施する。
- ③集約した署名は、5月1日(水)に知事・労働局長に提出、県民の声を代表し、雇用の安定・確保に向けた一層の努力を要請する。

びっくり 保険料が半分に?!

3月10日(日)全労済の30周年記念講演会「生命保険を見直そう」に、連合群馬役職員も参加してきました。

講師には、ファイナシャルプランナーの小野瑛子さんを迎え、大幅賃上げの見込めない現在の経済情勢の中、生命保険を見直して保険料を大幅に減らし、可処分所得を拡大する方法について講演がなされました。

小野さんは、「ほとんどの人は義理(G)人情(N)プレゼント(P)で保険に入っています。そして万一の際に受けられる保障もわからない人が大勢います。保険の内容をよく調べて、不必要な部分を取りやめるだけで、保険料は大幅に安くなります。

しかし、万一の保障まで減ってしまったのでは困るので、十分な保障を受けられるように、次の手順でみなさんの保険を見

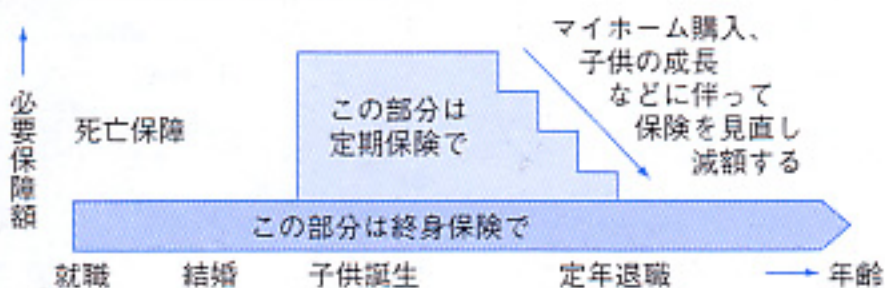
直して下さい。」との説明がありました。

その手順は……

- ①保険加入の目的を明確にする。
遺族保障や老後・医療など保険に入る目的を確認する。
- ②必要保障額の計算と保障期間の確認。
保険加入者が死亡した場合、保険金がいくら支払われれば遺族が生活に困らないか計算する。また、その保障はいつまで必要(子供の独立・ローン返済などで必要金額が少なくなる)かを決める。
- ③保険証券を見て加入保険の内容を確認する。
常に保険料の総額(全部でいくら払うのか)を意識しながら、どんな保険に入っているのか確認する。
- ④ニーズにマッチしているか検討する。
①と③を比較し、余分なものはないかを調べる。
- ⑤見直し方法を検討し実行する。

講演のモデルになったY・Sさんの場合、労組共済や全労済の保険への切替えを中心に見直した結果、保険料が約1/4にまで減少しました。詳しくは、お近くの全労済や労働組合の共済担当者にご相談ください。

●年代別・必要保障額の推移



編集後記

◆今年はずいぶん咲いたと思ったら、あっという間に散ってしまった。花が咲いている期間は短いけど、桜の木は一年かけて花を咲かせるために力を蓄える。◆現在、連合群馬は「ぐんまふれあいフェスティバル」成功に向けてエンジン全開中。皆さんのご協力をお願いします。

大分以前のことであるが、カメラに凝っていた頃に、「犬の記憶」という写真を見たことがある。

犬の視覚(地上四〇センチ・モノクロ映像)から見た人間社会という写真集で、日常的に見ている社会も、犬の視線(立場を変えれば)からは、違う社会に見えるということであるが、それが妙に鮮烈な印象として残っている。

考えて見れば日常の仕事(活動)も同様で、いつも同じ立場からは何の疑問も感じないが、別の立場に立った時に、果たしてそれが本当に正しいことなのかどうか、常にその視線(客観的な見方)を持つことが重要である。

仕事の習熟は大切なことであるが、マンネリ化して自分の仕事の検証と見直しができなくなることは、却ってマイナス要因となりかねない……。

せとねのりぱん